



とみながりゅうし
〔富永 柳 旨俳諧短冊〕 (ほととぎす)

近世

はとりいっこう
羽鳥一紅の姉といわれている女性俳人、
柳旨 (1712~1787 年) の短冊です。

「ほととぎす まくらに科は ^{とが}なけれども」
とあります。

初夏の夜に聞くホトトギスの初音 ^{はつね} (その
年に初めて聞く鳴き声) は、古来より季節の
訪れとして珍重されてきました。これを聞
こうと、待ち疲れて寝てしまい、とうとう
聞けなかった様子を「枕に罪はないけれど
…」と、その残念な思いを詠んでいます。

松井家旧蔵文書 P01013 No.853-63